

ブラジル 2025/26年度のオレンジ収穫量は前年比36%増加の予測

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月12日

ブラジルの柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)の執行役員(兼事務局長)であるジュリアーノ・アイレス氏は今朝、2025/26年度のブラジル産オレンジ作柄予測レポートの発表に当たり、「良い知らせがある。豊作になるだろう」と述べた。(以下「」は同氏の話)

同団体はオレンジの生産量を、昨年の2億3,087万箱(40.8kg/箱)より36%多く、過去10シーズンと比較して4.8%多い3億1,460万箱と予測している。

要素別では、オレンジの結果樹本数を1億8,200万本、果樹1本当たりの果実数を30%増の617、ヘクタール当たりの収量を昨年の687箱より多い869箱、1箱当たり果実数を258玉、果樹1本当たりの収量を平均1.72箱と予測している。

「収穫量は平均的な水準に戻ってくる。昨年は暑くて乾燥した異例の天候により作柄が劇的に悪かったため、収穫量の回復はこのセクターに安堵をもたらしている。」

予測される増収の背後にある主な推進力は、施肥、灌漑、病虫害防除等の生産者が実施する栽培慣行及び恵まれた天候である。

同団体は、2、3年前に植えられた果樹の成木化による結果樹の7.5%の増加のほか、灌漑の減少等の栽培方法の改善と果樹当たりの果実数の増加を報告している。

ブラジルの柑橘類栽培面積のほぼ半分が灌漑されている。「気候が変化して、気温が上昇し、降雨量はより少なくなり、サンパウロ州やブラジル中の多くの柑橘類産地で灌漑がほぼ不可欠な手段になりつつある。」

2025/26年度のオレンジの作柄に影響を与える要因

アイレス氏によると、覚えておくべきことの1つは、オレンジの木には落果のタイミングが3回あるということである。それは、生理的落下、開花直後、及び開花後である。

8月中旬から9月下旬にかけて、同国では通常よりも気温が高く、灌漑によって促進された最初の開花に影響を与えた。「天候は、特に中部地域、南部地域、北部地域、及び(ミナスジェライス州の)三角地域に影響を与えた。」

「開花の特徴が変わった。果実数が多くなったが、それは2回目の開花に集中している。2回目の開花は、9月から11月頃の激しい降雨の後で見られた。」

2回目の開花は今年の実産量の約70%を占めており、これは収穫が遅くなり、したがって果実の出荷が遅くなることを意味する。

調査によると、成熟した果樹の51%がカンキツグリーニング病に感染している。「競争力を維持するためには、果樹園を健全に保つ必要がある。」ただし、防除と管理の強化により、新たな感染は減少し始めている。

「我々はカンキツグリーニング病を減らし始めている。5年後には、現在よりもカンキツグリーニング病が少なくなると考えている。」

ナタール、バレンシア、ハムリンの各品種は最も生産量が多く、1果樹当たりの平均果実数はそれぞれ753、695、692である。同団体は158グラムの果実重を期待している。

予測の次の更新は9月に発表される。